



# 心臓財団 季報

No.181

Tel 03-3201-0810

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル835区・A  
 Fax 03-3213-3920 e-mail:info@jhf.or.jp http://www.jhf.or.jp/

財団法人日本心臓財団

November 10, 2005

## 平成17年度日本心臓財団研究奨励決定

本年度の研究奨励事業は、第31回日本心臓財団研究奨励と第3回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)に全国から83名の応募があり、磯部光章東京医科歯科大学教授を委員長とする選考委員会が9月29日に開かれ、下記に掲載の12名が選考されました。

第31回日本心臓財団研究奨励は40歳未満の少壮研究者を、第3回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金)は30歳未満の将来性のある若手研究者を対象に心臓血管病の成因、治療、予防等循環器の研究領域広範囲から募集するものです。

奨励金はそれぞれ100万円で、贈呈式は来る11月28日に東京・銀行倶楽部において行われます。

選考委員長	磯部 光章	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科循環制御内科学教授
選考委員	上田 一雄	九州大学医療技術短期大学部名誉教授
(五十音順)	米田 正始	京都大学大学院医学研究科心臓血管外科学教授
(敬称略)	下村伊一郎	大阪大学大学院医学系研究科病理病態学教授
	砂川 賢二	九州大学大学院医学研究科循環器内科学教授
	土居 義典	高知大学医学部老年病・循環器・神経内科学教授
	堀内 正嗣	愛媛大学医学部医化学・心血管生物学教授
	望月 正武	東京慈恵会医科大学内科学教授
	盛 英三	国立循環器病センター研究所心臓生理部長
	山口 巖	筑波大学大学院人間総合科学研究科循環器病態医学教授

### 第31回日本心臓財団研究奨励 対象研究者

(五十音順・敬称略・奨励金額はそれぞれ100万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	安藤 誠 (40歳)	榊原記念病院外科医長	小児開心術における人工心肺に伴うGlucose Spikeの炎症誘起
2	尾池 雄一 (39歳)	慶應義塾大学医学部発生・分化生物学講師	アンジオポエチン様増殖因子(AGF)の血管新生及び抗動脈硬化作用の分子機構
3	大内 克洋 (34歳)	東京医科歯科大学生体材料工学研究所助手	機械的補助循環時の心補助効果に対する心筋細胞機械受容チャネルの影響のモデル解析
4	尾野 亘 (39歳)	国立病院機構京都医療センター 展開医療研究部・生命情報科学研究室室長	脂肪細胞分化制御に関する遺伝子の網羅的解析 ・脂肪由来エンケファリンを標的としたメタボリックシンドローム治療法の開発
5	斉藤 功 (39歳)	奈良県立医科大学公衆衛生学講師	循環器疾患予防のための血管内皮機能評価： 明日香村研究
6	竹下 治男 (37歳)	島根大学医学部法医学教授	血清DNase 活性上昇は超早期の急性心筋梗塞の診断マーカーになる
7	谷山 義明 (38歳)	大阪大学大学院医学系研究科 臨床遺伝子治療学助手	ペリオスチン特異的中和抗体による心不全治療薬の開発
8	成 憲武 (38歳)	名古屋大学医学部循環器 ゲノム情報応用診断学助手	心筋リモデリングにおけるカテプシンSの分子病態生理学的意義及び心機能障害マーカーとしての有用性に関して
9	西田 基宏 (31歳)	九州大学大学院薬学研究院講師	Gタンパク質を介した心筋線維化のメカニズム解析
10	深尾 太郎 (28歳)	東京大学大学院工学系研究科化学生命工学助手	アテローム動脈硬化に関連するマクロファージ特異的microRNA群の同定

### 第3回日本心臓財団若年研究者研究奨励(藤基金) 対象研究者

(五十音順・敬称略・奨励金額はそれぞれ100万円)

番号	氏名	所属	研究課題
1	大内 仁 (29歳)	東京慈恵会医科大学大学院医学研究科 生理学講座第2博士課程大学院生	1アドレナリン受容体刺激で活性化されるCaMK による興奮収縮制御機構の解明
2	白川龍太郎 (28歳)	京都大学大学院医学研究科博士課程大学院生	活性化血小板における濃染顆粒放出の分子メカニズムに関する研究

## 第1回 日本心臓財団・ノバルティス 循環器分子細胞研究助成対象者決定

当財団ではこのたびノバルティスファーマ株式会社の協力を得て、循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される40歳以下の少壮研究者育成のために、日本心臓財団・ノバルティス循環器分子細胞研究助成を開設し、第1回を実施いたしました。

本研究助成に49題の応募があり、選考委員10名による書類審査が行われ、9月20日に開催された選考委員会において下記の10名が選考されました。助成金はそれぞれ100万円です。

また、今回の助成研究には発表報告が予定されております。

選考委員 (五十音順) 敬称略	伊藤 宏	秋田大学医学部循環器内科学教授
	北風 政史	国立循環器病センター心臓血管内科部門部長
	倉林 正彦	群馬大学大学院医学系研究科臓器病態内科学教授
	小室 一成	千葉大学大学院医学研究科循環病態医学教授
	斎藤 能彦	奈良県立医科大学第一内科学教授
	砂川 賢二	九州大学大学院医学研究科循環器内科学教授
	筒井 裕之	北海道大学大学院医学研究科循環病態内科学教授
	永井 良三	東京大学大学院医学系研究科循環器内科学教授
	室原 豊明	名古屋大学大学院医学系研究科器官制御内科学教授
	森下 竜一	大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学教授

## 研究助成対象者

(順不同、敬称略)

1	赤尾 昌治(39歳) 京都大学医学部附属病院循環器内科 研究課題: 多光子レーザー顕微鏡を用いた心筋虚血再灌流傷害のリアルタイムイメージングの確立
2	赤澤 宏(38歳) 千葉大学医学部心血管病態解析学 研究課題: メカニカルストレスによるアンジオテンシン受容体活性化機構の解明と創薬への応用
3	明石 真(31歳) 佐賀大学医学部血管不全学 研究課題: 時計遺伝子変異マウスにおける動脈硬化進展の分子メカニズム
4	王 英正(38歳) 京都大学医学部附属病院探索医療センター 研究課題: 心筋幹細胞特異的増幅因子の同定による次世代心筋再生医療の開発
5	尾野 亘(39歳) 国立病院機構京都医療センター 展開医療研究部・生命情報科学研究室 研究課題: 脂肪細胞機能制御に関する遺伝子の網羅的解析 - Tryptophan hydroxylase 1遺伝子の心血管疾患発症における役割の解明 -
6	佐野 元昭(37歳) 慶應義塾大学医学部再生医学 研究課題: 心筋リモデリングにおけるミトコンドリア酸化的リン酸化能低下の分子生物学的機構の解明
7	鈴木 亨(38歳) 東京大学クリニカルバイオファーマティクス研究部門 研究課題: 心血管系転写因子KLF5によるボム(ADP-リボース)合成酵素(PARP)のアポトーシス活性阻害のメカニズムの解明 - アポトーシスの新規メカニズムの解明ならびに創薬の標的として -
8	豊田 英嗣(39歳) 川崎医科大学循環器内科 研究課題: 分子ターゲティングマイクロバブルを用いた非薬物遅延虚血心筋への冠血管新生療法
9	前田 法一(35歳) 大阪大学医学部内分泌・代謝内科学 研究課題: メタボリックシンドロームの治療標的としてのアディポネクチンの分子的意義の解明
10	山口 修(35歳) 大阪大学医学部循環器内科学 研究課題: ASK1依存性心筋細胞死から心不全発症に至る分子生物学的機序の解明

## 第3回「動脈硬化 Update」研究助成対象者決定

当財団では、動脈硬化研究の一層の進展と少壮研究者の育成に努めるうえで、動脈硬化領域における研究を行う40歳未満の研究者に対して第3回「動脈硬化 Update」研究助成を実施しました。

本研究助成に35題の応募があり、及川眞一日本医科大学教授を委員長とする選考委員7名による書類審査により3題が選考されました。9月3日に開催の研究発表会で選考された3名による発表をもとに最優秀賞1題と優秀賞2題が次のとおり決定しました。このほかに奨励賞5題が選ばれました。

選考委員長	及川 眞一	日本医科大学第三内科学教授
選考委員	上田真喜子	大阪市立大学大学院医学研究科病理病態学教授
(五十音順) 敬称略	酒井 寿郎	東京大学先端科学技術研究センター教授
	下村伊一郎	大阪大学大学院医学系研究科病理病態学教授
	堀内 久徳	京都大学大学院医学研究科循環病態学助手
	山下 静也	大阪大学大学院医学系研究科分子制御内科学助教授
	山田 信博	筑波大学臨床医学系代謝内科学教授

## 研究助成対象者

(順不同、敬称略、金額単位: 万円)

1	平井 希俊(33歳) 京都大学大学院医学研究科循環器内科 研究課題: 弾性線維形成の分子機構の解明	200
2	児島 陽子(32歳) 神戸大学医学部附属病院循環呼吸器病態学 研究課題: 血管内皮リパーゼのHDL代謝と血管病変形成過程における役割	100
3	森本 剛(34歳) 京都大学医学部附属病院総合診療科 研究課題: 高血圧症合併2型糖尿病患者における動脈硬化性疾患の一次予防に関する研究	100

## 第10回日本心電学会学術奨励賞 決まる

第22回日本心電学会学術集会在10月6日・7日の両日、富山国際会議場ほかで井上博氏(富山医科薬科大学医学部第2内科教授)を会長に開催され、7日の総会において当財団が後援している第10回日本心電学会学術奨励賞の授賞式が行われました。

これは日本心電学会の会員で、心電学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される40歳未満の研究者に贈られるものです。

今回は上田和雄(東京医科歯科大学歯学総合研究科心肺機能外科学) 関口幸夫(武蔵野赤十字病院循環器科)が最優秀賞に、荻ノ沢泰司(産業医科大学第二内科) 奥村恭男(日本大学医学部循環器内科)が優秀賞に選ばれました。

## 募集のお知らせ

### 第19回日本心臓財団 バイエル薬品海外留学助成

1. 助成対象  
心臓病・脳卒中・高血圧・動脈硬化症等の循環器領域の研究に携わる研究者
2. 助成金額  
1件300万円とし原則として10件
3. 応募資格  
次の事項のすべてに適合する者  
1) 初めての海外留学であること  
2) 35歳未満(1971年4月1日以降生まれ)で日本国籍を有すること  
3) 1年以上留学すること  
4) 留学先研究機関の責任者または受入者の承諾を得ていること  
5) 一定の研究業績を有すること  
6) 2006年4月1日～2007年3月31日の間に出発の予定であること
4. 応募期間  
2005年10月1日～11月30日

### 第11回日本心臓財団 ファイザー心血管病研究助成

1. 研究テーマ  
不整脈の治療 - 臨床～分子生物学的アプローチ -
2. 助成金額  
総額1,400万円(優秀課題12件に各50万円、さらに12件の中から翌年選考される最優秀課題4件に各200万円)
3. 応募資格  
1) 応募は一施設一演題とする  
2) 対象: 原則として個人研究  
3) 年齢: 年齢が40歳未満(1965年4月1日以降に生まれた者)  
4) 施設: 原則として臨床系教室及び病院  
5) ただし、次の事項に該当する者は応募できない  
前年度の助成対象者の連続応募  
同一研究テーマでかつ同年度に他の助成を受けた者  
6) 応募は日本在住者に限る(ただし日本在住外国人も可)
4. 応募締切日  
2005年12月22日(木)必着

### 第2回日本心臓財団 ノバルティス循環器分子細胞研究助成

1. 助成対象  
循環器領域における分子細胞生物学的研究の進歩に著しい貢献が期待される研究者とする。研究対象は基礎あるいは臨床の別は問わない。
2. 助成金額  
1件100万円を10件
3. 応募資格  
1) わが国に在住する者  
2) 年齢が40歳未満(2005年4月1日時点の年齢)  
3) 原則として臨床系教室およびそれに準ずる施設  
4) 原則として個人研究

5) ただし、次の事項に該当する場合は応募できない  
過去本研究の助成対象者となった者  
前年度の助成課題の連続応募

4. 応募期間  
2005年12月1日(木)～2006年1月31日(火)締切日必着)

詳しくは、<http://www.jhf.or.jp/>をご覧ください。

問い合わせ先  
財団法人 日本心臓財団事務局まで  
電話(03)3201-0810 FAX(03)3213-3920  
E-mail info@jhf.or.jp

## 第1回ヘルシーメニューの会を開催

9月8日(木) 第1回ヘルシーメニューの会(主催: 日本心臓財団、後援: 日本栄養士会、日本循環器管理研究協議会、協賛: 花王株式会社)が東京・東海大学交友会館にて開催されました。この会は、管理栄養士・栄養士の方々を対象に、生活習慣病の改善や予防に役立つ食生活についての講演と、実際にヘルシーな弁当を食べていただくものです。

第1回目の今回は、「肥満と糖尿病の予防に役立つ食生活」と題し、日本栄養士会会長の中村丁次氏より講演があり、肥満を防ぐヘルシーメニューとして「旬のお魚と西京味噌風味焼き弁当」が千吉良靖男シェフより提供され、またシェフ自らによる調理解説がありました。和食でありながら塩分を約3gに抑え、その分、だしや味にメリハリをつけることにより、おいしい味付けになるよう、工夫されていました。

当日は、120名近くの参加者が来られ、活発な質問も多く出て、盛況な会となりました。

### ヘルシーメニュー

蛤インベリアル風 / 薩摩芋の旨煮 / じゅん菜と山芋の酢の物 /  
巻き海老の旨煮 / 椎茸の詰め物(鳥挽肉)入り焼き

お刺身(すずきの昆布締め) /  
秋刀魚の詰め物(ごぼう)入り焼き / 石川芋の煮物 /  
おから饅頭 / 豚肉の西京味噌風味焼き

沢煮椀(鶏肉、椎茸、人参、竹の子) /  
野菜(キャベツ)のマリネ / 麦ご飯



当財団では8月10日が810(ハート)と読み取れることから、1985年にこの日を「健康ハートの日」と定め、一般の方に循環器疾病に関する正しい知識の普及啓発を進めてまいりました。世界心臓連合は2000年に9月の最後の日曜日を「世界ハートの日」と決めました。

## 世界ハートの日

9月最終日曜日に世界的な心臓病予防キャンペーン実施

毎年9月の最終日曜日には、世界心臓連合(World Heart Federation)の呼びかけにより、「世界ハートの日(World Heart Day)」として、自分の心臓を大切にしましょうという主旨のもと、2000年より世界的なキャンペーンが行われています。

日本心臓財団でも、パンフレットの日本語版制作に協力してきましたが、本年はより一歩踏み込む形で、キャンペーン活動を実施しました。

そのひとつは、メディアを対象にした「世界ハートの日・プレスセミナー」(9月12日、東京国際フォーラム)です。

本年の「世界ハートの日」のテーマは「健やかな体重、健やかな体型(Healthy Weight, Healthy Shape)」であることから、日本肥満学会理事長であり内臓脂肪と心疾患に関する研究の第一人者である松澤佑次氏(住友病院院長)をお招きして、「ウエストサイズストーリーと心臓血管病」と題する講演をしていただきました。

また、当財団常任理事であり、世界心臓連合の理事でもある篠山重威氏より、世界各国の「世界ハートの日」キャンペーンの活動状況の報告があり、わが国におけるメディアの協力を強く呼びかけました。

さらに、当財団副会長である杉本恒明氏より、世界心臓連合とサノフィアベンティス社の共同調査である「Shape of the Nations: 国際間における腹部肥満意識調査」の結果報告が紹介されました。

そして、最終日曜日である9月25日当日には、「世界ハートの日」キャンペーンとして、東京・有楽町マリオン前にて、ウエスト周囲径を測り、健やかな体型を維持しましょうという呼びかけとともに、テーブルメジャーを配布しました。また、浜松では、浜松労災病院の協力のもと、イトーヨーカドー内にて、血圧や体脂肪測定などとあわせた健康相談イベントを実施し、ウエスト測定とともにテーブルメジャーを配布しました。

心臓病の危険因子として内臓脂肪のたまった肥満がクローズアップされています。内臓脂肪が蓄積しているかどうかは、日本人の基準としては、ウエスト周囲径が男性85センチ、女性90センチを超えているかどうかで予測できます。当財団でも、心血管病の予防に、今後は体重だけでなくウエスト周囲径に注意するよう呼びかけていきます。



(9月12日・プレスセミナー)



(世界ハートの日・パンフレット)



(9月25日・有楽町にて) (9月25日・浜松にて)

## 第6回 エコ・ウォークソン 2005 インジャパン

第6回エコ・ウォークソン横浜大会 開催！

10月23日、今年で第6回目を迎えるチャリティ・ウォーキング大会「エコ・ウォークソン」が横浜で開かれ、多数の方にご参加いただきました。

ウォークソン(walkathon)とは、ウォーク(walk)とマラソン(marathon)の合成語で、参加者が歩いた距離に応じて寄附をするウォーキング大会の名称として知られています。このエコ・ウォークソンは、デンマークで始まり、世界の国々でも行われているチャリティ大会です。日本では、参加者ひとりが1km歩くごとに100円として金額換

YOKOHAMA 物語 ~ エコ・ウォークソンに参加して

昨日までの不安定な天候が嘘のように、気まぐれな秋の太陽を引っ張り出すことに成功したばかりか、澄み渡った青空の向こうに、富士山まで顔を出すおまけつきの秋晴れでした。多くの参加者の健康とチャリティへの思いが通じたのでしょうか。さんさんと横浜の街に降り注ぐ陽の光は、私の上着を一枚、また一枚と脱がせ、さわやかな汗をかかせてくれました。

9月23日の日曜日の朝、日本心臓財団事務局の一員として第6回エコ・ウォークソンに参加した私は、10キロの完歩を目指し、撮影もかねてフライング気味にスタートしました。

パシフィコ横浜から臨港パークを回り、すずかけ通り、ショッピングモールを抜け、横浜美術館の前の通りへ。このあたりで早くも健脚の先頭集団に追い抜かれてしまいます。この日は日本丸の帆が広がる日でしたが、朝早かったせいか、まだ帆は広がっていませんでした。汽船道、万国橋通りから馬車道を抜け、横浜スタジアム前に。かなり歩いたかと思いきや、まだ4.5キロ。中華街、元町と、立ち止まり、うろろろしたくなる衝動を抑えて歩く私を待っていたのは、元町公園へと続く代官坂。疲れ始めた足には、かなり堪える急坂です。そういえば20年前、運転免許を取ったばかりの頃、女の子をとなりに乗せて港の見える丘公園までドライブしたとき、渋滞で坂道発進の連続になり、緊張の連続だった坂道。この坂道が今また私を苦しめているのかと、わけのわからないことを考えつつ、元町公園、外人墓地へ。ようやく着いた港の見える丘公園で、しばし休息。ここまで約1万歩だそうで、300キロカロリー消費。「ビールをジョッキ1杯飲んだら、ほとんどパーだな」とドクターに言われ、1万歩も歩いてビール1杯分かと、少々がっかりです。

気を取り直して、山下公園目指して坂を下って行きます。目の前に広がる青空と青い海が元気を与えてくれました。

算したものを寄附金として、(財)日本心臓財団および(財)日本ユニセフ協会に寄附されることになっています。

横浜大会は、パシフィコ横浜を出発して市内を一周して歩くコースで、総距離10km、完歩すると、ひとり千円がチャリティとして寄附されます。今年は4,802人の参加者が完歩され、会場での募金と合わせ総額4,831,669円の寄附が集まりました。ありがとうございました。



山下公園の海沿いの道を通り抜けると、途中で膝を抱えた「赤い靴」の女の子の像。野口雨情氏の詩で知られる童謡の主人公にはモデルがいて、北海道開拓に向かう親がその先の生活の厳しさを案じて宣教師の外人夫婦に預けた話を聞いて、詩にしたそうです。ところが実際はその後、結核を患った女の子は、宣教師夫婦と一緒に海を渡ることができず、麻布の孤児院で9歳の短い生涯を閉じたといわれています。そんな感傷に浸りつつ、いよいよゴールを目指して赤レンガパークへ。

軽く昼食を食べて、パシフィコ横浜に戻ってきたのがスタートしてから3時間後。何とか10キロ完歩です。そしてお待ちかねの特別コンサート。昨年に引き続きザ・ワイルドワンズの皆さんに、今年は中村あゆみさんとデキシーキングスもゲスト参加。楽しいステージになりました。

私にとっての圧巻は、中村あゆみさんの「翼の折れたエンジェル」。20年前に大ヒットした曲が、時を経て深みの増したハスキーヴォイスで甦り、強く心を打たれました。

眩しかった太陽がようやく夕陽に変わり、横浜の街をオレンジ色に染め出す頃、パシフィコ横浜の会場を後にしました。私にとっては心地よい疲労と20年の月日を思い起こす、そんな横浜での一日でした。とは言いつつ、明日になったら足が動かなくなりそうな、運動不足を痛感させた日でもありました。

(日本心臓財団事務局 Y. H.)



**「スタムラー先生記念講座開設基金」  
にご支援ありがとうございます**

日本の循環器疾患の疫学・予防医学の普及発展とその指導者の育成に貢献されたスタムラー先生の記念講座がノースウェスタン大学に開設されることになり、第179号季報(本年5月10日発行)の中でその設立基金への寄附協力の呼びかけがありました。

それに応じていただいた方々の寄附金を当財団が取りまとめノースウェスタン大学へ送金いたしました。総額177,000円(US\$1,683.54)となりました。

メールマガジンを始めました



当財団では、心臓病予防のための情報を、より多くの方々に知っていただくため、9月よりメールマガジン(月刊・無料)の発行を始めました。

当財団主催・後援の一般向け健康イベント情報を中心に、ホームページの更新情報などのほか、「ドクターのつぶやき」など読み物も掲載しております。

配信をご希望される方は、当財団ホームページよりご登録ください。なお、ホームページ上にはバックナンバーを掲載しております。

**ご支援ありがとうございます**

当財団へのご寄附

次の方からご寄附を頂戴しました。ここにご芳名を記して感謝の意を表します。(2005年8月～10月)

多賀野利弘 様	茨城県水戸市	70,000円
建部 孝一 様	茨城県宇都宮市	30,000円
匿名 様		100,000円
村上 勝彦 様	東京都北区	13,865円
鈴木 常雄 様	東京都北区	150,000円
匿名 様		10,000円
匿名 様		300,000円
匿名 様		30,000円
匿名 様		30,000円

当財団をご支援下さる方

本年度もご支援をいただいた方のご芳名を掲載します。

(敬称略：2005年8月26日～10月31日)

今 泉 勉	小見山 延子	林 直彦
久保田 徹	鈴木 典夫	東 あかね
甲谷 哲郎	高木 宏	平岡 昌和

心臓財団からのお願い

～ご寄附ならびに賛助会にご加入～

当財団が循環器疾患の予防・制圧事業を展開するうえで、その多くは寄附金ならびに賛助会費により支えられております。あなたのまわりの方にもぜひ呼びかけてください。

ご寄附はいくらでも受けさせていただいております。当財団は「特定公益増進法人」として認可を受けておりますので、税制上の優遇措置が講じられております。

賛助会は日本心臓財団の目的に賛同し、その働きを支援する方々、法人によって構成されています。賛助会費は、個人の場合、年額1万円、法人の場合は5万円程度でも差し支えありません。

ご支援いただける場合は、下記の口座をご利用ください。

郵便振替口座 00140-3-173597

宛て先 財団法人日本心臓財団



お近くにお越しの節はお立ち寄り下さい。

あとかき

日本心臓財団のキャッチフレーズのひとつに、「わたしが守る わたしの心臓」という言葉があります。これは、自分自身が生活習慣に気をつけて、心臓病を予防していこうという考えです。私どもはその手助けとして、多くの正しい情報を送ることを心掛けています。その方法として、私どものホームページの充実、メールマガジンの発行、そしてメディアへの情報提供を積極的に展開しています。

皆様もこれらの情報を、ぜひご活用いただけますと幸いです。

また、循環器専門医向けに本年1月リニューアルしました月刊誌「心臓」も、順調に1年を迎えようとしています。多くの先生方に定期購読していただけますと幸いです。(Y.H)